

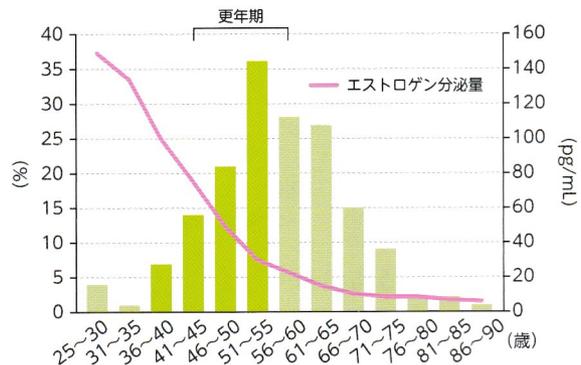
第2章 女性ホルモンの変化がおよぼす手指の症状

1. 手指の痛み・変形も更年期症状のひとつ

50歳以降の女性に起こる手指の痛みや痺れ、腫れ、変形といった症状は、手指の酷使や加齢が原因だと考えられてきましたが、エストロゲンの減少が関与している可能性があります。



女性ホルモンの変動と手指の痛み・変形の割合との関連



女性ホルモンが変動する時期と、手指の痛み・変形の時期が一致

↳ エストロゲンの減少が関与している可能性 ⇒ 更年期以前からの予防・対策を

提供：四谷メディカルキューブ手の外科・マイクロサージャリーセンター

2. 女性ホルモンと手指の症状の関係

エストロゲンは、エストロゲン受容体という受け皿にくっついてはじめて効果を発揮します。エストロゲン受容体は手指の関節や靭帯にも含まれており、更年期以降はエストロゲンの分泌が急激に低下することで、患部の痛みや腫れを引き起こす可能性があります。さらに、患部が腫れて神経が圧迫されるとより症状が重くなる恐れがあることから適切な予防や治療が必要です。

3. 手指の症状の治療法

手指の関節の痛みは50歳前半、変形は60歳代からが最も多く、手指の痛みに対して適切な治療がされずに7~10年経過して変形に至った可能性が高いと考えられます。治療法は、①安静・固定、②薬物療法、③手術の順で行うのが基本です。更年期症状の治療法として漢方療法、向精神薬、カウンセリング心理療法な

●更年期における手指の痛み・変形への治療法

①安静・固定	②薬物療法	③手術
<ul style="list-style-type: none"> できるだけ手指を使わないようにする 患部を動かさないようテーピングを巻く など 	<ul style="list-style-type: none"> ビタミン剤や消炎鎮痛剤の内服 患部へのステロイド注射 など 	<ul style="list-style-type: none"> 症状に合わせて、腱鞘の切開、関節の固定、人工関節を入れる手術 など

軽い → 重い
症状の重さ